

「救える命」のため、世界中で培った人脈駆使

時のひと



善意だけでは何もできない。約30年前、カンボジア難民のキャンプに医大生2人を連れてボランティアに行ったが、国連から活動許可が下りず何もできずに帰国した。

■被災地への医療チーム派遣で活躍するAMDA代表

菅波 茂さん (63)

を中心とする多国籍医師団「AMDA」を岡山市に設立した。難民キャンプが生まれ、大地震が起こるたびに医療チームを派遣。「救える命があればどこへでも」を旗印に、これまで支援活動をしたのは50カ国以上。14日に中国西部で起きた地震でも現地入りを目指す

という。設立当初は資金がなく、年数回会議を開いて人脈づくりに励んだ。初めての海外活動は92年のバングラデシュ難民支援。国境なき医師団が受け入れを拒否され空港で足止めされる中、バングラデシュ人をリーダーとするチームを派遣したAMDAは地元で歓迎されすぐに現地入りできた。培ってきた人脈が生きた。世界中のネットワークを駆使、政府の医療チームが入れない国で数多く活動してきた。

設立から25年たったが、今も活動の基盤はネットワークづくり。世界各国に30の支部と約50の姉妹団体を抱え、最近は大学とも連携を進める。

ことし1月のハイチ大地震では、設立以来初めて自ら被災地に行き現場で指揮を執った。「現地の人々の喜びの声をじかに聞いて感動した。活動を続けてきて良かった」。広島県福山市出身。